

2026 平和行動 in 広島 報告

日 程：2026年8月5日（水）～6日（木）

参 加：6名（内事務局 1 名）



1. ピース・ウォークの中止・広島平和記念資料館の見学



当初 13 時から約 2 時間半予定をしていたピース・ウォークが熱中症警戒アラートの発令により中止となった。

そのため、急遽、広島平和記念資料館を見学することとした。

原爆がもたらした悲劇が、数字ではなく一人ひとりの物語として迫ってくる場所だと

感じた。焦げた衣服や時計、写真、遺品などから、当時の暮らしや家族との時間が突然奪われたことが伝わり、胸が締め付けられた。

それと同時に、復興した広島 of 街の姿を見ると、人間の強さと平和を守る責任の重さも強く感じた。

2. 被爆 81 年 連合 2026 平和ヒロシマ集会への参加（上野学園ホール）

8 月 5 日 16 時から、「連合 2026 平和ヒロシマ集会」が開催された。

被爆者の平均年齢が 86 歳を超え、記憶の継承が急務となる中、主催者を代表して連合の芳野会長が挨拶に立った。

芳野会長は、世界に 1 万 2000 発以上の核弾頭が存在し、週末時計が過去最短の残り 85 秒に進むなど核の脅威が高まる現状を警告。524 万筆超の署名を国連に届けたものの NPT 成果文書が 3 回連続不採択となった厳しい情勢を指摘し、唯一の戦争被爆国である日本政府に、非人道的な核兵器の廃絶に向けた粘り強い外交努力を強く求めた。

続いて、96歳の被爆者・切明千枝子氏が登壇した。過酷な労働や、校庭での凄惨な火葬などの実相を語り、「平和は油断すると逃げてしまう」と訴えた。

これを受け、スイス派遣等を終えた高校生平和大使らが活動を報告。国際政治の対立を痛感しつつも、若者の発信力に確信を得たとし、被爆100年（2045年）を見据え「微力だけど無力じゃない」を合言葉に平和へのバトンを繋ぐ決意を述べた。

最後は、被団協のノーベル平和賞受賞を希望の光とし、核抑止論からの転換と連帯を誓う平和アピールを採択。集会は、被爆者の叫びを次世代が受け継ぎ、核なき世界へ地道に行動する決意を新たにす場となった。



3. 連合・原爆死没者慰霊式への参加（広島平和記念公園）

集会終了後、平和記念公園の原爆ドーム前に移動し、19時15分から行われた連合「原爆死没者慰霊式」に参加した。

会長らによる献花・献水の後、各地方連合の代表者が「各地域の水」を慰霊碑に献水した。その後、参加者全員が一人一輪の菊の花を献花し、原爆死没者に対して哀悼の意を表した。



4. 感想

今回、ピース・ウォークの中止は残念だったが、その分、広島平和記念資料館を見学し、原爆の悲劇を数字ではなく、一人ひとりの人生や家族との時間が奪われた現実として深く受け止めることができた。

また、平和ヒロシマ集会では、被爆者の体験や高校生平和大使の報告を通して、平和の尊さと、それを語り継いでいく責任の重さを改めて実感した。

さらに、原爆死没者慰霊式での献花・献水を通じ、犠牲となられた方々への哀悼の思いを新たにした。

私たちが安心して暮らし、働くためには、「社会が平和で安定していること」が大切であり、なぜ連合や労働組合が平和運動に取り組んでいるのかを改めて考えさせられた。

連合平和行動2026

ピースメッセージ #1

運輸労連 T・Tさん

～2026平和行動in広島に参加して～

「私は広島の街を歩くとき、心の中で『ごめんね、踏んでごめんね』と唱えながら歩いています。皆さんも広島の街を歩かれる際はそのことを忘れないようにお願いします」

今回初めて連合の平和行動に参加させて頂いて、特に印象に残ったのが被爆体験証言者の切明千枝子さんのお話でした。切明さん自身も、避難した先の学校のグラウンドに穴を掘り、壊れたがれきを集めてご遺体を焼却し埋葬したという話をされていました。丁重に埋葬する事はできず、同様の事が広島市内各所で行われ、足元には多くのご遺体が埋められているという事で、大きな衝撃を受けました。

今我々は平和な日常を過ごしていますが、当時は意思に関係なく生命を奪われた方が多くいます。我々の仕事である労働条件の向上は平和が絶対的な前提条件であり、これからも平和であり続けるために今回感じた悲惨さを語りついでいきます。戦争は悪である。



ピースメッセージ #1

運輸労連 K・Yさん

実は私は今回が50数年の人生において初めての広島訪問です。

普通は学生のうちに修学旅行などの平和学習の一環として訪れるものかと思われませんが個人的にその機会がないまま今日まで過ごしておりました。

たいした予備知識もないまま広島へ。

近代的な町並みからは原爆の被害を感じることもないまま平和記念資料館へ。エアコンが効いているはずの建物内でありながら、とても暑く、いや、熱さを感じました。熱線を浴びた人々の写真、真っ黒に焦げて溶けてしまっている展示物を目の当たりにし、なぜか汗がとまりませんでした。一瞬で命を奪われた人々、幸運にも生き延びたにもかかわらず後遺症に苦しんだ人々。息が苦しくなりました。

その後参加した連合2026平和ヒロシマ集会の後におこなわれた原爆死没者慰霊式で広島ドーム前で献花をさせていただき改めて平和の大切さを感じました。



ピースメッセージ #1

私鉄総連 M・Yさん

原爆被爆から81年を迎えた広島で開催された平和集会広島に参加させていただき、改めて平和の大切さや有難さを実感する機会となりました。

一発の原爆投下によって、14万人の命が奪われ、その一人ひとりにかけがえのない人生があり、大切な人や家族がいたこと、そしてその何倍も大切な人を突然失った遺族いることを思うと胸が痛みます。

81年という歳月は長いようで遥か昔の出来事ではなく、私たちの祖父母たちの世代が体験した出来事だと考えると、今の平穏な生活や社会が決して当たり前ではなく、多くの過ちや犠牲の上に成り立っている、脆く貴重なものだということを再認識しました。

人類は今も世界各地で戦争をし、多くの人々が犠牲になっており、一刻も早い終結を願っています。また、私たちは同じ過ちを繰り返さず、大切な人や家族まもるため、平和を守っていくことを心に誓いながら参加を終えました。



ピースメッセージ #1

私鉄総連 I・Kさん

2026平和行動in広島に参加し、現地を訪れる機会はありませんでした。これまでも原爆については、テレビや新聞などを通して知っていましたが、実際に広島を訪れ、平和を願う多くの方々の姿を目にすることで、改めて戦争の悲惨さや平和の尊さについて深く考えさせられました。

平和ヒロシマ集会では、被爆体験者の切明千恵子様が当時15歳での体験を、聞かせていただきました。14万人余りの尊い命が奪われ、今もなお、放射線の後遺症は被爆者を苦しめ続けています。「平和はほっておくと逃げてしまう。だからこそ行動をし、自分たちの手でしっかりとつかまえておく。」私たちは、決して風化させてはなりません。

長い年月が経った今でも、原爆によって受けた苦しみや悲しみを抱えている方がいることを思うと、決して過去の出来事として終わらせてはいけなと感じます。

今回の訪問を通して、平和な日常を送ることができるありがたさを改めて実感しました。次の世代へ平和の大切さを伝えていくことが、私たちの役割の一つではないかと思います。

平和の強い意志を共有し、これからも平和運動に取り組んでまいります。



連合平和行動2026

ピースメッセージ #1

UAゼンセン(青年委員会) I・Mさん

原爆投下から81年を迎える中、「平和行動 in 広島」に参加する機会をいただき、感謝申し上げます。

ピースウォークは猛暑のため残念ながら中止となりましたが、平和記念資料館や原爆ドームを見学させていただきました。被爆の歴史や資料に直接触れることで、核兵器がもたらした悲惨な現実や平和の尊さについて改めて学ぶことができました。

平和集会では、被爆者である切明千枝子さんの体験証言や平和へのメッセージに触れ、原子爆弾がもたらした甚大な被害と、その影響が現在もなお続いていることを学びました。また、全国から集まった参加者とともに平和への思いを共有することで、核兵器廃絶と恒久平和の実現に向けた取り組みの重要性を改めて認識しました。

さらに、高校生平和大使が国内外で核兵器廃絶と平和の大切さを訴え続けている活動に触れ、若い世代が平和の担い手として主体的に行動していることに大きな感銘を受けました。

被爆の実相や平和への願いを未来へつないでいくためにも、世代を超えて平和について考え、行動していくことの大切さを実感しました。

今回の経験を通じて得た学びや気づきを職場でも共有し、一人ひとりが平和について考えるきっかけづくりにつなげていきたいと思います。平和なくして労働もできません。

今後も平和の大切さを胸に刻み、まずは署名活動などできることから行動していきたいと思います。

